出発前に疲れてしまったウィーン行

（2014 年 2 月 10 日出国－2 月 16 日帰国）

20 年来の大雪が関東を襲い、交通機関マヒのため成田空港まで行きつけず。翌日出発となった記。仕事の出張で予定外の事態は、2008 年 9 月パリ行きの際 Federal Express 機の成田空港墜落のため空港が大騒ぎになったとき（「エールフランスとペンギンの記」http://www5f.biglobe.ne.jp/~pinawa92/bunsho/2008AF&penguins.pdf）、その半年後の2009年3月に同じくパリ行きの際にエールフランス機整備不良で23時間後に出発したとき（「パリ・パッシー界隈散策記」http://www5f.biglobe.ne.jp/~pinawa92/bunsho/2009ParisPassy.pdf）、そして昨秋水戸から郡山まで行くのに台風のために終日足止めを食らったときくらいが記憶に残っているが、今回はことさら疲れた。予定翌日の 2 月 10 日に出発したが、当初予定だった 9 日の顛末から書き始めよう。

2 月 9 日（日）晴れ

朝 0649 水戸駅南口発成田行き高速バス・ローズライナーに乗るために、いつものごとく 5 時に起床。いつものごとく前日晩に慌ただしく荷物を詰め、深夜 1 時すぎには出発準備万端。すでに開催しているソチオリンピックの TV 中継もそこそこに就寝したのだった。

今日は近年まれにみる大雪らしく、関東の交通機関への影響がさかんに報じられている。昨日（2 月 8 日）の時点で携帯電話に以下の【災害通報メール】が届いていた。「着雪」「着氷」なんて見慣れない用語が見える。

0504 大雪、着雪注意報（発表）@茨城県北部南部
0540 風雪、波浪注意報（発表）@東京地方
1020 大雪警報、着氷、着雪注意報（発表）@東京地方
1027 大雪、風雪、波浪、着雪注意報（発表）@福井県嶺北嶺南
1556 暴風雨、波浪警報（発表）@茨城県北部南部
1845 強風注意報（発表）、大雪、風雪、着雪注意報（解除）@福井県嶺北嶺南
1919 水戸市メールマガジン、市内積雪 7 cm@19 時

昨夜のうちにローズライナー乗り場まで自家用車を使うことを諦め、近所のタクシー会社に翌朝の予約を頼もうとしたが、「明日は運転しないことにした」と。何？！プロじゃないのか？

朝起きて窓のカーテンを開いて見ると、晴れてはいるが昨日の天気予報は大当たりで、今冬初の銀世界だった。昨夜のうちに降った雪は 30 センチ以上に積っていた。タクシーはダメでもとにかく出掛けないと。自分の車に乗り込む。雪はあるが幸い気温は下がっていない。車の温度計で外気温は零℃だ。ということは道路表面は凍っていない。家内を隣に載せてとにかくエンジンをかけてみた。アクセルをそろりと踏む。しかしスタックして思うようにはいかない。これじゃ出掛けたとしても家内は怖がってひとりで運転して戻って来られない。早速に断念。

タクシー会社を覗いて来よう。昨夜はああ言っていたが、もしや動かしているかも知れない。タクシー会社の前まで新雪の中をズボズボと歩いて行く。果たして 1 台のタクシーが出掛けるところ。窓を開けていた運チャンに「動いてますか！？」と聞くと「動いてるよ！」と返事し、スリップしながら出て行った。何だ動いているじゃないか。早速家に戻り、今度は荷物を抱えて再度タクシー会社へ。ところが事務所の高齢の 3 人が、「タクシーはない。エンジンがかからない。もう一度試してみるから待ってて」と。エンジンがかからない…。車のプロじゃないのか…。待っているうちに僕の中では出掛ける気持ちが急速に萎えていった。

タクシーを断り荷物を抱えて雪の中をズボズボと家に戻る。この時点で 6 時半。ふたたびパソコンとにらめっこになる。まだ、成田空港への鉄道はすべて運転されていないし、再開の見込みは発表されていない。往生際悪く、何とか鉄道が動き始めないか…。その努力も 8 時になるころには完全に失せる。今からでは 11 時発の飛行機に間に合わない。

東京→成田への鉄道アクセスは大きく分けて京成電鉄と JR 線、京成電鉄には成田スカイアクセス線と京成本線がある、ということがわかった（http://www.narita-airport.jp/jp/access/train/index.html）。それらはどれも雪に対してとても脆弱だということも。

線によってウェブ情報の更新頻度が違う。この辺は、担当者が単にさぼっているのは論外として、利用者がどういう情報を欲しがっているかを担当者がどの程度意識しているかによるのだろう。長時間更新しないのは、状況が変化していないのだから発信の必要なしと担当者がもし思っていたとしたらそれは違うと思う。たとえ変化なくともそのこと自体をアナウンスしてくれれば有用な情報なのだ。

…ついに観念した。今日の出発は無理だ。延期しよう。職場に伝えるとともにフライトチケットを購入した旅行社に連絡をする。職場に伝える、というが、週末にはとても伝えにくいことがわかった。これでは非常時の通報は多分無残だね。

一方旅行社は極めて迅速に対応。すでに多数の問合せに対応しているところ。曰く「千葉県内の鉄道は全滅、高速道路が閉鎖されたので高速バスも運休、タクシーは我が身の安全を図るのが優先で乗車拒否、かろうじて乗り込めた顧客からは千葉県に入った途端渋滞で車は動かず、フライトに間に合わないと電話があった…」。僕と同じ飛行で同じ目的地まで行く予定だった東京の方は、何とか成田空港まで到着したものの 1200 発の予定が 1630 に変更され、本日は断念したと。無理に乗ってもヘルシンキでのウィーンへの乗り継ぎがうまくない可能性は大いにあるから、賢明な判断。

今回の出張も前回と同じくあるところからの依頼出張だから、行程変更は依頼元の了解を得る必要がある。旅行社の担当者は依頼元担当者に電話。出ない。仕方がない。事後承諾だ。旅行社には代わりのフライトを探してもらう。

2 時間ほど経った 11 時頃メールが入り、明日の同時刻のフライトをとれたと。さすがにサービス業は早い。見習いたいものだ。その旨自社関係者に連絡。これで本日の出発はなくなった。少なくとも本日中に成田空港へ向かうことはない。しかし明日の朝はどうか。成田空港へ向かうことが出来る程明日の朝は交通機関の復旧を見込めるか。これからも情報に注意。

もうひとつ忘れてはいけないのは、ウィーンのホテルの宿泊予約確認。今日 1 日分のキャンセル料がとられるのは仕方がない。しかしそのまま放っておくと以降の予約が取り消されてしまうのではないか。そこで、スマホに届いていた予約情報のメールから電話番号を探す。いくつか電話番号があってどれも「平日のみ」と書いてあるが何とか連絡しないといけない。今日は休日だがともかくダイヤルしてみる。幸い 2 件目で若い男性が電話に出て事なきを得る。どうやら九州の旅行社らしい。到着が一日遅れることを伝える。旅行の仕組みはわからないが、僕は団体旅行の一員として組み込まれていたよう。

やることはやって一息つく。睡魔が近づいて来たことがわかったが、何やら家の前の小路の雪かき作業が始まったようだ。

僕の家の斜め前の T 字路。家の駐車場の雪をここに掻き出したお宅があるものだから、T 字路で車が通れない。数人でせっせと雪を掻く。下水マンホールの中を覗いたら既に雪が詰まっていて放り込むことができない。そもそも大量の雪を放り込むようには出来ていないのだ。豪雪地帯の僕の田舎は、昔は雪を大きなマンホールに捨てたものだ。最近は融雪用の配管が敷設されている。たかが雪かきでも大汗をかく。いい運動だが、気をつけないと腰を痛めそうだ。終わり頃お向かいの奥さんは甘い紅茶を差し入れてくれた。「奥の M さんちに 3 月にフランスからの高校留学生が 3 カ月ほど滞在するみたいだから、外大でフランス語勉強してる娘の〇〇ちゃん、相手よろしく」と近所付き合いの種まき。

長い長い午前中が終わり、昼御飯を済ませ、そしてまたパソコンの前に座る。電車はどうなっているんだろう。「更新ボタン」を何度押しても成田空港へ通ずる鉄道は回復の見込みを見せない。だんだん焦って来た。このままでは、明朝になっても空港への交通は開けないのではないか。しかし水戸に居るより、少しでも成田に近づいておいてはどうか。今日中に東京まで出るか。早速ホテルを探す。さすがに高い。高いが仕方がない。オンラインで上野の「ホテルサンルート“ステラ”上野」を予約。今まで使ったことがない、初めてのホテルだ。

もうこの頃には雪が解け始め、家内も運転できるようになっていた。ようやく本当の出発だ。水戸駅まで送ってもらう。1631 発予定の上野行き各停が 19 時前出発。どうでもいい情報だが、今日に限り土浦での 5 両連結はせず、かつ今日に

限り松戸までの運転だと車内放送がしきりに言う。松戸で乗り換えて 20 時半過ぎ上野着。水戸駅では常磐線特急全滅という構内放送だったが、石岡付近で特急復活のアナウンス、松戸駅を通過で追い越して行った。

「ホテルサンルート“ステラ”上野」は上野駅のすぐ横。下谷口から出ると目の前ではないだろうか。上野駅のこちら側は普段ならあまり近寄らないところだ。寒いのもあったが無性にラーメンを食べたくなり、すぐ近くのとんこつラーメン屋へ。ホテルは結構感じのいいホテルだった。明日朝は成田に行き着けることを祈りながら就寝。ちなみに、スマホに届いた 2 月 9 日（日）の【災害通報メール】は以下の通り。0824 と 1849 の間の 10 時間半は何も情報なし。「解除」にも勇気が要るからねぇ。

0102 大雪警報、高潮注意報（発表）@茨城県北部南部
0254 大雪、強風注意報（発表）、大雪警報、風雪、着氷、着雪注意報（解除）@東京地方
0504 暴風警報、大雪注意報（発表）、暴風雪、大雪警報（解除）@茨城県北部南部
0745 強風注意報（発表）、暴風警報、大雪、着雪注意報（解除）@茨城県北部南部
0824 水戸メールマガジン、市内積雪 14 cm@7 時、金町アメダス観測点
1849 波浪注意報（発表）、波浪警報、強風注意報（解除）@茨城県北部南部

2 月 10 日（月）

6 時過ぎ起床、早速ウェブで電車の通行情報を調べる。京成電鉄はまるで何事もなかったかのように「平常運転です」。助かった。これでようやく機内の人になれる。出発までの長かったこと。この備忘録もすでに 2 ページを費した。JR 線成田エクスプレスも京成成田スカイライナーも京成本線も全部動いていそう。朝食は食べずホテルをチェックアウトして京成上野駅へ。このホテルの朝食は 7 時からだそうで、福島のホテルの 6 時に慣れていると 7 時は遅い、ということもあり。

JR 上野駅と京成上野駅との間は、僕のように大きな荷物をガラガラ引いて京成上野駅へ向かう人と、同じく大きな荷物をガラガラ引いて JR 上野駅へ向かう人がすれ違う。駅構内もまるで何事もなかったかのようだ。「Vie de France」で朝食用にパンを買い、0705 発京成特急に乗りこむ。成田空港駅まで 1,000 円。1 両に 4，5 人しか乗らない。ガラガラだ。この電車は京成電鉄の本線で、船橋や津田沼を通り成田空港まで 1 時間半程度。ついでに調べたところによると；

- JR「成田エクスプレス」（NEX）は、羽田空港もカバーしようとするから、遠く大宮、高尾および横浜から浜松町を経由し、東京駅から成田へ。
- 京成電鉄成田スカイアクセス線「スカイライナー」は京成上野発日暮里経由成田行き
- 京成電鉄成田スカイアクセス線「アクセス特急」は「スカイライナー」と同じ路線だが、途中停車駅がいくつか。
- 「アクセス特急」には羽田空港から京急線、JR 線を経由して青砥でスカイアクセス線に合流する路線もある。
- 今回乗ったのは京成電鉄「特急」で、JR 総武線を走り船橋、津田沼、佐倉を経由して成田行き

空いていると思った車内は次の停車駅・日暮里に着いた途端一変。ガサゴソガタガタと大きなスーツケースとともに大勢が乗りこんで来る。一気に席は埋まる。だらっと足を組んでいた僕は勢い背筋を伸ばして座り直す。この駅以降、大きな駅ではどんどん海外へ発つ乗客が乗り込んで来る。車内で Vie de France で買ったパンを食べるのも恥ずかしく、と思いながらそれでも食べる。終着成田空港駅。改札が 2 回あるんだって？2 回目はパスポートチェックだ。高速バスで空港へ入る時のチェックと同じか。階上へ上がって気が付いた。このターミナルじゃない。ここは第一ターミナル。前回のオーストリア航空はそうだが、今回のフィンランド航空は第 2 ターミナルだ。電車を終着駅「成田空港駅」ではなく、ひとつ手前の「空港第 2 ビル駅」で降りるべきだった。ターミナル間移動バスで第二ターミナルへ向かおう。

空港内はひどく込んでいる。昨日乗れなかった乗客が今日に回って来ているのだろう。人の間をすり抜けエレベーターで地上階に降りる。ここで偶然見つけた

京葉銀行成田空港出張所で両替を済ます。ここはいい。空いている。並ぶ必要がない。客より銀行職員の方が多い。1 階だから着陸階だよね。まぁ、到着機がない限り混まないでしょうね。今回のレートは、1 ユーロ=142.70 円。2 万円を出して 140 ユーロと換金。4F に上がってチェックイン、荷物検査、パスポートチェックと何事もなく「出国」し、いつものように旅行保険購入を済ます。

フィンランド航空はサテライトと呼ばれる離れにある。以前はトラムみたいなものが走っていたが、なくなっている。歩きだ。歩いてもしれたものだが、トラムはどうしたのだろう。ラウンジはカンタス航空（Qantas Airways）のラウンジを借りている。眼鏡を掛けた美人のお姉さんに受け付けてもらい、スナックやらコーヒーやら。出掛けにはそのお姉さんは暇そうにスマホの画面を眺めていた。ラウンジは混んではいない。これで 1 日 8 時間仕事をして給料をもらっているのだろうか、代わってもらえないかと思いながらラウンジを出る。エアバス A330-300。エアバス 340-300 との違いは、絵で見る限りエンジン基数か。前者は片翼に 1 基、後者は 2 基。

往路は読書と決める。まずは機内誌。

北欧は僕にとっては全く未知の国だ。機内誌によるフィンランド情報。

- ✓ 人口：5410 万、人口密度 18 人／km^2（日本は 343 人／km^2）
- ✓ 面積：390,920 km^2、9%が淡水で残りの 303,909 km^2 が陸地。湖の数は 188,000。農地は 6%、森林が 68%。
- ✓ 平均寿命：男 77.5 歳、女 83.4 歳
- ✓ 家族数：平均 2.1 人。一人暮らしは 54%、アパート暮らしは 44%、人口の 84.4%がヘルシンキ周辺の 100 万人エリア内に居住
- ✓ おもな都市：ヘルシンキ、タンペレ（Tempere、2 位、20 万人）、トゥルク（Turku、18 万人）、オウル（Oulu、6 位、14 万人）、ユヴァスキュラ（Jyväskylä、13 万人）
- ✓ 言語：フィンランド語 90%、スウェーデン語 5.4%
- ✓ 宗教：Lutheran（ルター派；プロテスタント最大教派）78%、Orthodox（ギリシャ正教）1%　（ほかの宗教は皆 15 未満で、合計 21%以上？）
- ✓ 教育：25～64 歳の 81%が義務教育以上の中等教育または高等教育終了、37%（EU 加盟国で最高）が大学またはそれ以上
- ✓ 労働：25～64 歳の女性の 80%が家庭外で就労。月々の平均収入（2013 年第 3 四半期）は男が 3,563 ユーロ（51 万円）、女が 2,957 ユーロ（42 万円）。

こうして見るとフィンランドについて何も知らないのに気づく。ヘルシンキ以外の都市は知らない。フィンランド語とスウェーデン語の違いについては前回に簡単に書いた（「も一度ウィーン 記」[1]）。1 家族 2.1 人は少ない気がするが、一人暮らしが多いからだろうね。女性の就労率は高い。そうそうこれを書いている常磐線特急電車の中で目にした電光掲示のニュース：男性の家事労働時間、日本人は 1 日 1 時間 4 分で最低レベル、最高はフィンランドの 3 時間。

機内誌の次は、ポール・ナーイン著、小山信也訳『オイラー博士の素敵な数式』（日本評論社：原題” “Dr. Euler’s fabulous formula: cures many mathematical ills”）2 回目読了。オイラーは複素解析の申し子、というか化身だね。それから複素解析だけでなく多面体の方程式「V-E+F=2」もオイラーによるらしいし、三角形の重心と外心と垂心は一直線上にあることを証明したのも彼で、その直線を「オイラー線」と呼ぶらしい[2]。

その他の読み物は仕事の書面。眠り薬だ。

隣に座った乗客は、すらっと背の高い若い女性で、今回出張 2 人目の美人。ドイツのハンブルグに帰るのだと言っていた。ビジネスで初めて日本を訪ね、大阪、

---

[1] http://www5f.biglobe.ne.jp/~pinawa92/bunsho/2013Vienna.June.pdf

[2] http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%82%A4%E3%83%A9%E3%83%BC%E7%B7%9A

京都で仕事をし、東京に半日ほど居てさあ帰ろうと思ったら僕と同じで雪のために足止めを食って一日延期になった。着陸直前に何か話していたとき、彼女は急に構えだした。両手で椅子の肘掛を掴み、両脚は床に踏ん張っている。着陸時のバウンドが怖いのだと。着陸後機体がスピードを緩めてタクシーイングに入るまでその姿勢は続き、真剣な面持ちだった。血圧は相当に上ったろうね。その後は元に戻り、降り際に「これは日本の土産だ」とビニール傘を見せてくれた。

ヘルシンキ空港到着。入国審査に間違った列に並んでしまったのか、若い中国人グループの列につく。これで時間がかかる。係員はひとりひとり何かと質問している。イヤミな係員かと覚悟したが僕にはさっぱりしていた。その後荷物検査。ここの荷物検査場はいつも混んでいる。

昨年 9 月に来て以来 2 回目のヘルシンキ空港。さすがに通路の雰囲気は覚えている。ああ、ここだここだ、ここで帰りにトナカイ肉の缶詰を同僚に買ったのだ（その缶詰は家族に大変不評だったらしいが、まさか開けるとは思っていなかった…。）明るくて賑やかな通路をどんどん行くと、ウィーンへの乗り継ぎ便が出る 20 番ゲート辺りからは通路は狭くなり天井は低くなり灯りは暗い。まっすぐ行けば 90 番ゲートまであるらしい。時間があることだし、このまま先端の 90 番ゲートまで行ってみるか…、と思ったがあまりに遠いので途中で引き返す。どんなに隅まで行ってもチョコレートを売っている店はあるものだ。

20 番ゲートの長椅子に座り搭乗を待つ。どこのゲートでも必ず一人は居るのだが、携帯電話で大きな声でしゃべっているやつ。その近くしか空いていないので仕方なく隣に座る。頬杖をつきながら行き交う人々をぼんやりと眺める。中国からと韓国からの旅行客は大変多い。日本人も結構よく見掛ける。男性はビジネス客、女性は旅行客だ。

定刻より少し遅れて、エアバス A319 機はウィーンまでの 1,462 km、2 時間半のフライトへ発つ。機内食はビビンバ（Bibimbap）。フト気付いたのだが、ご飯食でもパンは配りに来る。まぁ、マニュアルでそうなってるんだね。

ウィーン・シュヴェヒャート空港到着。バッゲージ・クレームまでこれでもかと思うほど延々と歩き、荷物を取り上げたらさっさと空港の外のバス停に向かう。今回は西駅脇のホテルを選んだから、西駅行きのバスが便利だ。南駅近くの常宿へ行くのに、ありもしない南駅行きのバスを探しまわった前回と違い、今日は間違いなく乗り込んだ。往復 13.00 ユーロ（1,855 円）で、南駅と西駅との間にあるマイドリンク駅を経由して 25 分ほどで 21 時頃西駅へ到着。

ここでスマホのナビは頼りになる。バスを降りた駅正面を駅舎に平行に北に向かい、垂直に交わるフェルバー通り（Felberstraβe）を渡ったところにホテルはある…とナビは言うが、横断歩道を渡ったところで見回しても「Mercure」のネオンも看板も見えない。立ち止まってスマホを覗いていたら、同じように旅行バッグを引いてスマホを手にした若い女性が声を掛けて来た。「Step Inn というホテルを探している」と。そこで僕は親切にも自分のスマホのナビでそのホテルをみつけてあげて、「この道をまっすぐ西へ行ったところにあるはず」と教える。たぶん大丈夫だろう。「ところで僕のホテルは？」と思ってスマホを覗き込んだ途端バッテリー切れでスイッチが切れる。GPS を使っているとバッテリーの減りが本当に早い。

こうなったら誰かに訊くしかない。ちょうど目の前の「Westbahn Hotel Wien[3]」という、由緒ありそうなホテルにつかつかと入って行き、「Mercure」はどこかと、小さいけれど風格のある受付の老紳士に聞く。この老紳士は、ほんとに紳士で、にこやかにそして実に丁寧に、ゆっくりとした英語で一筋向こうだと教えてくれた。今来た道を戻る。何のことはない、さきほど女性に道を訊かれたまさにその場所は僕のホテルの真ん前だった。角にあるこのホテルの正面玄関は、フェルバー通りに面しているのではなくて、脇のレール通り（Löhrg.）に面しているのだ。ようやくチェックイン。

---

[3] Wastbahn Hotel Wien / Pelzgasse 1, 1150 Wien, Österreich, +43 1 9821480 / westbahn-hotel.at
ところで、westbahnhof なら「西駅」だが、westbahn だとエキサイト辞書翻訳によれば「西明瞭」と出てくる。「Autobahn」こそ「高速道路」と訳されるものの、Bahn は「道路」ではないらしい。「道路」は「Straβe」「Weg」とかのよう。

メルキュール・ウィーン・ヴェストバンホフ
MERCURE WIEN WESTBAHNHOF
Felberstraβe 4, 1150 Wien, accorhotels.com

チェックインカウンターの中年の小太りの男性は、「フライトプロブレムか？」と訊く。雪だと答える。理由はどうであれ初日分のキャンセル料は徴収される。観光ホテルだから立地はよい。西駅の北側にあたる。ロビーは広く、奥の方まで続いている先には何か娯楽施設があるよう。

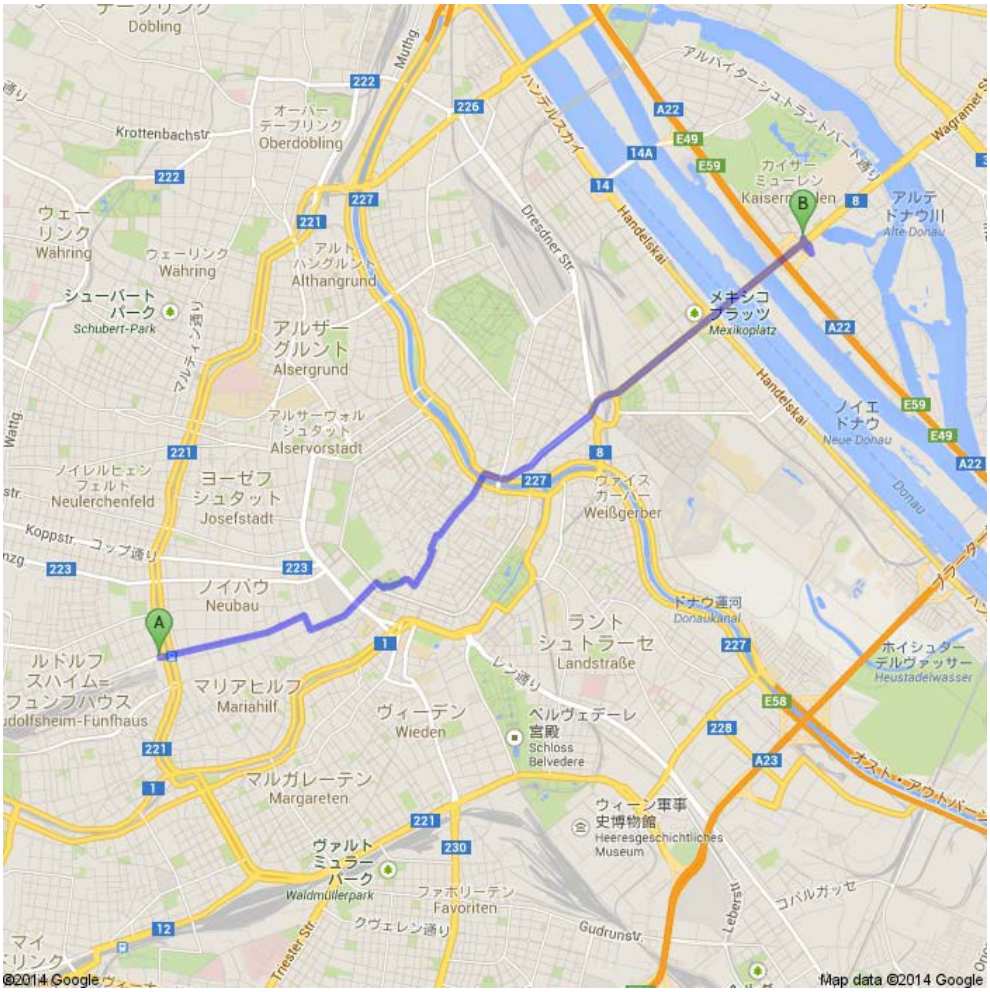
2 月 11 日（火）

例によって時差ボケで未明に目が覚め、そのまま朝を迎える。

朝食は、ん〜、満足。すばらしい。ウィーンのホテルで朝食に失望したことはないが、ここの朝食には思わずニンマリだ。日本人らしい若い女性の二人連れを見かける。それも一組でなく二組、三組と。韓国人かも知れない。区別がつかない。なぜか皆二人連れだ。二人連れに社会学的意味があるのだろう。二人以上の意味は何とも心強いということだが、3 人だと 2 対 1 に分かれる。これは気まずい。ただ、…、やめておこう。

朝食を 7 時過ぎに終えて出勤する。勤務は 9 時からで、ここから地下鉄 U3-U1 と乗り継げば 20 分くらいで職場には到着できるだろうが、できるだけ歩こうとの思いから早めに出る。辿ってみる道路は旅行書を見てすでにマリアヒルファー通り（Mariahilfer Straβe）と決めている。旅行書には「ヒルファー」と書いてあるが Google map では「イルファー」。どちらが正しいかわからないが、ヒルファーで行こう。

この通りは、地元の人の日常の買い物通りで、週末には歩行者天国になることもあるほど混み合うとのこと。旅行書によると、文房具、本、カレンダーを揃え



る「タリア」(Thalia) とか、キッチン用品の専門店である「ヴェーエムエフ」(WMF) とか、化粧品、アクセサリーなどの「ゲルングロス」(Gerngross) とか、キッチン雑貨やファブリック用品の「ライナー」(Leiner) とかがある。・・・残念ながらどれも知らない。けれど、覗いてみるのは面白そう。「タリア」の文房具には興味ある。もっとも今は朝の 7 時過ぎ、さすがにどの店も開いていない。この時間に開店しているのはカフェとパン屋とハンバーガー屋。カフェはどこも一杯だ。

マリアヒルファー通りは途中まで地下を地下鉄 3 号線（U3）が通る。西駅から東へツィーグラーガッセ（Zieglergasse）駅、ノイバウガッセ（Neubaugasse）駅と続く。その後地下鉄はマリアヒルファー通りを北へ外れ、次の駅はフォルクステアーター（Volkstheater）駅。そのあといわゆる旧市街（Inner stadt）のリンクの中の、超街中のヘレンガッセ（Herrengasse）駅、そしてお上りさん通りのケルントナー通り（Kärntner Straβe）の先のシュテファンスプラッツ（Stephansplatz）駅。ここで、地下鉄 1 号線（U1）に乗り換えればあと 10 分ほどで勤務先だ。

地下鉄ではなくて、今日のようにマリアヒルファー通りを歩けば、リンクのひとつ外周りの地下を走る地下鉄 2 号線（U2）のムゼウムスクヴァルティーア (Museumsquartier) 駅辺りに出る。さすがにこの交差点はでかい。なぜ広場 (quartier) と呼ぶかと言うと、右手の美術史博物館と左手の、それと双子のような建物の自然史博物館に挟まれたマリア・テレジア広場があるからだ。そう、2 か月前のクリスマス前に来た時に、同僚とクリスマス・マーケットに来て、チョコレート屋さんの屋台でホットワインをこぼしたあの広場だ。

マリアヒルファー通りをそのまま美術史博物館の裏手を東に直進すればリンクにぶつかる。この辺りは王宮（Burg）に近いのでブルクリンク（Burgring）という。どんつきはハプスブルク家が贅を尽くした「応急庭園」、…じゃなくて「王宮庭園」(Burggarten) だ。今日のところは庭園に入らず、リンク沿いに歩いて国立オペラ座の角を左折、ケルントナー通りに入る。ここを北上してシュテファンスプラッツから地下鉄に乗る。ホテルからここまでキョロキョロしながら歩いてほぼ 1 時間。シュテファンスプラッツ駅で地下鉄の 1 週間切符、15.80 ユーロ。

ほぼ四半期に一度集まる仕事の会合は月曜日から始まる。通常初日である月曜日の夕刻にレセプションがあるのだが、今回は今日、つまり火曜日に開かれた。建屋内の開けたロビーのようなところで、ワインとスナックのいつものレセプションだ。一日遅らせたのは、日本人が何人か雪のため到着が遅れたことへの計らいか？

レセプションで日本人の D さんと立ち話をし、この機会にと思って街へ出かけて一緒に夕食をすることにした。レセプションのときから D さんの横にはピタリと日本人女性がくっついていたが、この人が D さんの専属の通訳であることは後で知った。日本から連れていくより安いと言われてこちらで雇ったのだと。

この通訳女史ー名前を聞くのを忘れたがーは、日本語のメニューを揃えているところを選んでくれて、D さんと二人でシュヴェーデンプラッツの「Griechenbeisl」（グリッヒェンバイスル）で食事をすることに。軽くと言ったが、選んだ料理はメチャ重かった。

Griechenbeisl
Fleischmarkt 11 A-1010 Wien, www.greichenbeisl.at

有名な店らしく日本人もたくさん来るのだろう。日本語のメ

ニューのほかに日本語のパンフも用意してあった。「Die historische Altwiener Gastätte」は「長い歴史を持つ伝統的ウィーンレストラン」と訳されている。ただ、ウェブを眺めていたら、冷たくあしらわれたとの日本人観光客の声もあり。

胃がパンパンになり、これは腹ごなしが必要と、シュヴェーデンプラッツから西駅まで延々歩いて帰る。

2 月 12 日（水）

今日もまたホテルから街中まで歩く。傘が要るかと思って持って出たが、さすほどでもなかった。寒くはない。

今日はマリアヒルファー通りではなく地図を観ながら路地を行こう。西駅の正面に面する、中央分離帯がやたら広くて上りと下りのレーンがえらく離れているノイバウ通り（Neubaugürtel）の横断歩道を渡る。渡ったところは急に道が狭くなり、ここからはリンデン通り（Lindengasse）である。

と、ここで、面倒くさいので道の種類は問わず、いつしか何でも「～通り」と書いてきたのが、困った。そう、西駅が面する通りノイバウ通りは Neubaugürtel であり、昨日の日記に出てきた地下鉄駅がある通りは Neubaugasse である。この地下鉄路線が同名の通りと交差するところだからなのだろう [4]。で、辞書によると、Gürtel は「ベルト」（Glt.と略す）、gasse は「小路」「裏通り」（g.と略す）だ。中央分離帯があるような道路は「帯」があるだけに「ベルト」か。ついでに Straße（Str.と略す）が「通り」、「大通り」は Hauptstraße。というわけで、今後も「通り」で通そう。ただしアルファベットの方は略称を使う。

リンデン通りはさすがにめぼしいものは何もなく、朝だというのに人通りもない。ずんずん行くとシュティフト通り（Stiftg.）にぶつかり、右折してまもなくマリアヒルファー通りに出る。

ここからは昨日と同じくリンクにぶつかるまで歩き、今日はそのまま「王宮庭園」に入る。朝早くから門は開いている。入って間もなくのモーツァルト像を、ト音記号を模した花壇とともにパシャリ（→）。写真左側の大きな建物は王宮の一部である国立図書館。モーツァルト像に近づいてもう 1 枚撮ったが、後でピンボケとわかって却下。手ぶれ防止機能が当たり前についている最近のカメラでピンボケを撮るというのはある意味テクニックが要るのではないか？庭園の中のゆるやかに曲がる歩道を歩いて庭園を反対側に抜ける。

公園の裏口を抜けたところは、ハヌシュ通り（Hanuschg.）という何とも中途半端な路地だが、ここは「アルベルティーナ（Albertia）美術館」の端っこの裏手に当たる。表側に回り、アウグスティーナ通り（Augusttinerstra.）からシュピーゲル通り（Spiegelg.）に入る。この曲がり角には「演劇博物館」（Österreichisches Theatermuseum）があり、日本の何かの催しものをやっていた。ポスターの写真を撮る（→）。

もう 1 枚撮った写真（次ページ）は車。こうして写真を見ると何の変哲もないが、実は正面の車は前後の車の間のスペースに縦列駐車したのだ。僕の目の前で。フランス人の友人デルフィーヌの駐車には何度か感心したが、ここウィーンでもお目にかかった。神技？車から降りてきた中年男性は車の前後を確認し、眺めていた僕に気が付いて親指を立てて見せた。われながらうまくできたということだろう。

---

[4] 「ノイバウ（Neubau）」はこの辺りの地区（7 区）名らしい。ノイバウの南が 8 区「マリアヒルフ（Marihilf）」で、その代表的な通りがマリアヒルファー通り。

そのままシュピーゲル通り（Spiegelg.）を行くと、かの高級店通りのグラーベンに出る。シュテファンスプラッツで地下鉄に乗る。

今夜の夕食は、カールスプラッツの近くのベトナム料理店にて。「ウィーン分離派会館」[5]の裏手に当たるゲトライデマルクト通り（Getreidemarkt）沿い。ここで、ウィーン在住の日本人の集まり（United Nations in Vienna - Japanese Community）「第 9 回 UNVJ 例会」が開かれ、井上さんが招待講演。

SAIGON
Getreidemarkt 7 1060 Wien, http://www.saigon.at/home.php

会費は食事とドリンク 1 杯で 20 ユーロ。ドリンク 2 杯目以降は個別会計。個室かと思ったら通常のレストランのフロアーで講演会。100 人程度が聴くには具合が悪かったろう。井上さんもしゃべりにくかったろう。窓に垂らした白い紙に映し出したパワポスライドをまともに見ることができたのはほんの 20 人程度か。そうそう、味？ん～、日本で食べるのとあまり変わらないような。まぁ僕は味音痴ですので、皆さんお試しを。

帰りはやっぱり歩き。途中で迷う。マリヒルファー通りを素直に西へ向かえばよかったものの、ここを入れば今朝のリンデン通りへ出るはずだと思って右折したのが間違いだった。リンデン通りまでえらく遠いなぁと思って歩いていてついに路面電車通りにぶつかる。これはおかしい。来すぎだ。ウィーンのこの辺り、ある程度道が垂直に交差しているから助かる。左折すれば西向きだ。西へ向かう。夜は 10 時頃。電車通りとはいえそれほど広くなく、店はちょぼちょぼしかなく、人通りは少ない。西へ向かう。結構歩く。どこを歩いているのやら、こんなに歩いたら西駅を超えてしまうのではないか。

道の反対側を同じ方向に向かってすたすたと若い女性が歩いていく。靴紐を結びなおしているところに近づいていき、「西駅はどちらの方向か？」と聞いてみた。歩いて行こうと思って聞いたのだが、彼女は電車を教えてくれる。「この通りの電車に乗ると乗り換えなくてはいけない。この先の交差点から、交差する路線の電車に乗ればいい」と。言われた通り次の交差点までいくと、道路沿いに停車場がある。ほどなく電車が来て乗り込む。地下鉄の 1 週間切符で路面電車も乗れるんだっけ？わからないが平然と乗る。南へ向かっているはず。二駅を過ぎた後右折するとまもなくとても広い通りに出た。ああ、ここは西駅だ。ほっとする。

地図を眺めながら復習すると、マリアヒルファー通りから、どこかの道を北上し、たどり着いた寂しい電車通りはヴェストバーン通り（Westbahnstr.）だ。この通りを西へ向かって歩き、女性に道を尋ねたのがカイザー通り（Kaiserg.）の手前。路線図 http://homepage.univie.ac.at/horst.prillinger/metro/m/largemap-tram.html によると、僕が乗った停車場はカイザーシュトラーセ／ヴェストバーンシュトラーセ（つまり Kaiser 通りと Westbahn 通りの交差点駅－なんとわかりやすいネーミング！京都みたいにわかりやすい。三条蛸薬師とか。）で、乗った路線は、おそらくプラーターシュ

[5] （Wikipedia）1897 年にウィーンで画家グスタフ・クリムトを中心に結成された新しい造形表現を主張する芸術家のグループ。アーツ・アンド・クラフツ、アール・ヌーヴォーなどに影響を受け、モダンデザインへの道を切り拓いた。クリムトに見られるように世紀末の官能的、退廃的な雰囲気も漂わせている。世紀末のウィーンで展示会場を持っていたのはクンストラーハウスという芸術家団体であった。若い芸術家は次第にその保守性に不満を持つようになり、1897 年にクリムトを中心に造形美術協会を結成したが、クンストラーハウスはこれを認めなかった。そのため、クリムトらはクンストラーハウスを脱退して、ウィーン分離派を結成。絵画、彫刻、工芸、建築などの会員が集まり、過去の様式に捉われない、総合的な芸術運動を目指した。1898 年「第 1 回分離派展」を開催。同年、ウィーン市内に専用の展示施設、セセッション館（分離派会館）が建てられ、「第 2 回分離派展」を開催した。1905 年、内部対立からクリムト、オットー・ワーグナーらは脱退。分離派の活動は現在まで続いているというが、一般にウィーン分離派でイメージされるのは、19 世紀末から 20 世紀初めの活動である。

テルンと西駅をつなぐ 5 番だ。東西線みたいなものだな。ちなみにこの伝でいくと、南北線は、北のヌスドルフ（Nuβdorf）と南駅を結ぶ、ベルベレーデ宮殿の横辺りで僕も利用したことがある、D 番線だろうね。

2 月 13 日（木）

多分今週はずっとこんな天気なのだろう。雨はお湿り程度で、かと言ってスカッと晴れるわけではなく、せいぜい薄曇り。

今朝はマリアヒルファー通りへ入るも、途中から脇道へ入る。今度は迷わないだろう、明るいし。マリアヒルファー通りを地下鉄ノイバウガッセ駅の角を右（南）に入る。そこはアメルリンク通り（Amerlingstr.）。実はマリアヒルファー通りより北はノウバウガッセ通りで、南はアメルリンク通りと名が変わる。アメルリンク通りを入ってすぐにシュデクガッセ通り（Schadekg.）へ左折する。この先に水族館みたいなものがあるはずだ。まもなく右手に公園らしいものが見えてきて、その中の建物が目指す「ハウス・デス・メーレス＝アクヴァ・ターラ動物園（Haus des Meeres - Aqua Terra Zoo）」。海生水生動物園とでも訳すのか、いわば水族館だろう。HP（http://www.haus-des-meeres.at/）を見ればそんな感じだ。目指すといってもこの時間に開館しているわけではなく、結局滞在中に行けなかった。

この公園の端まで行くと交差点で、仕事場に向かうには左折すればいいのだが、ここでヴィントミュール通り（Windmühlg.）という細い道を行くことにした。というのは、この細い道は住宅地らしい方向に向かって緩やかな上り坂になっているのだが、なんだか以前に見た風景を思い出したからだ。その答えはまもなくわかった。2009 年、この道沿いのタイ料理店に来たのだ [6]。今そのタイ料理店は確認できず。閉店したか。「ヴィントミュール通り」は「風と沼の古径」という意味かと以前の手記には書いている。

この路地を東へ進んでテオパルト通り（Theobaldg.）へぶつかる。マリアヒルファー通りにかなり接近しており、マリアヒルファー通り沿いのスターバックスの横手に出る感じ。テオパルト通り、グンペンドルファー通り（Gumpendorfer Str.）を東へ向かう。近くに小学校があるらしく、男の子二人が猛烈な勢いで（この辺りは坂だから）ローラーボードに乗って通学する。昨夜のベトナム料理店が面するゲトライデマルクト通りを横切り、前回ウィーンに来た時に夕食を食べたイタリアンレストラン「Scala」が面するエリザベート通りを右折、リンク内へ入って地下鉄に乗り出勤。それにしてもどんより暗い通勤だった。

今夜はいつもの仕事仲間で夕食を囲むことにした。場所はロシア人同僚 2 人に一任。東の方のアジア料理レストランだと言う。彼らは宿泊しているホテルがそちらの方向にあるのか、残りの僕らは例の Brenda と Tamara と 3 人で向かう。職場前の地下鉄駅から U1 に乗り、街中とは反対方向、北東方向、アルテ・ドナウ（Alte Donau : 古ドナウ？）駅、カグラン（Kagran）駅、カグラナプラッツ（Kagraner Platz）駅を過ぎ、レンバーンヴェーク（Rennbahnweg）駅で降りる。U1 路線の随分先っぽに近い駅、終点のレオポルダウ（Leopoldau）駅まであと 3 つだ。

地下鉄というが、前々回泊まったホテルのあるフォルガルテン通り（Vorgartenstraβe）駅を最後に地下ではなくなって、次の、ドナウ川と並行して走る新ドナウ河との間のドナウ島（Donauinsel）にあるドナウ島駅からこちらはすべて地上駅。レンバーンヴェーク駅は地上も地上、高架駅である。下を 8 号線が通る。この道をさらに次の駅に向けて歩いていると、まもなく交差点の左側に目指すレストランがあった。8 号線沿いは暗くて他にネオンなどはないので「Lucky WOK」というサインは目立つ。

China Restaurant Lucky Wok
- Asiatische Spezialitäten
Wagramer Straße 189B, 1210 Wien, luckywok.at

「Wok」というのは西洋の町でよく見かけるが、これが店名か？アジア料理のチェーン店だ。「アジア料理」という料理はないのだが、ご想像の通り、日本料理、

[6] 「ウィーン歩き回り記」http://www5f.biglobe.ne.jp/~pinawa92/bunsho/2009Vienna.pdf

韓国料理、中国料理を中心とした料理をビュッフェ方式で食べさせるところだ。どうして生の魚の切り身がビュッフェに並んでいるのだろうと思ったら、この店は「Teppan」（鉄板）がウリらしい。切り身や野菜を皿にとって鉄板カウンターの向こうで待ち受けるコックさんに渡すとその場で焼いてくれる。焼いてくれた食材を先の皿に盛ってくれてその皿を自分のテーブルへ持って帰る。

いろいろ食べることができるという意味では格好の場所だ。僕は正直あまり食欲が湧かず、無難な中華料理とデザートをそれぞれ一皿、試しに寿司（サーモン、巻き）を少々食べただけだが悪くはない。ただ、外国で食べる寿司はやはりなんとなくおいしくないということはここでも確認。食べた中華は日本でも食べられるものだった。鉄板は遠慮。他のメンバーの皿を見て目で避けてしまった。味さえよければいいのだろうが、焼いた魚とか野菜とかを一緒くたにさらに無造作に盛られたのを見て、正直食欲が失せた。

それぞれの文化の食べ方があり、多分僕は敏感すぎるのだが、昨秋関西空港近くのホテルでも似たような経験をした。国際空港の近くで、アジア諸国の客や乗務員が多く宿泊する。朝ごはんはビュッフェスタイルで和と洋と両方ある。朝カレーも用意してあるのでカレー皿があるのだが、どこかの国の若者一団は、この皿に白ご飯を盛り、その上にいろいろな惣菜を載せるというスタイルである。なるほど食材の装い方は食文化によって違い、ご飯を単独で食べるのは日本のほか少数と聞いたことがある。多くの国ではライスをほかのものと混ぜて食べる。それはわかる、のだが、美的感覚などと大袈裟なことは言わないものの、ご飯を白いままで食べることを好む僕の目は、その若者たちの前に、ご飯の上にこぼれんばかりに雑多の惣菜が盛られて並べられた皿から、視線を逸らしたのでした。ご飯の上に別のモノを載せるのは日本でも「丼」ものとして発展し定着しているし、カレーもそうだが、やはり「装う」「盛る」にも日本ならではの文化があるのだ、と思っていた。

Wok での夕食は、いつもの 5 人（ロシア人 2、英国、カナダ、日本各 1）に、もうひとりロシア人が加わって計 6 人。加わったロシア人は以前広島大学に 2 年間滞在していたとか。それにしては日本語はうまくなかったし、さらに困ったことに彼の英語は私にはさっぱりわからなかった。隣に座った親日派のミヒャイル（Mikhail）は、以前からたびたび来日していたが、事故以来さらに頻繁になって、「この通り」と箸の使い方がうまくなったことに自分で満足そうだった。確かに最近付き合う外国人は、日本へ来てもあまり不自由なく箸を使う。全然使えない人を見ると意外に思えるほどだ。箸文化は浸透している。ビール大ジョッキ 2 杯を飲み、歩くたびに胃の中で波立つのを感じながら店を出、全員が地下鉄に乗り、三々五々降りていく。僕はカールスプラッツ駅で降り、ここからまたマリアヒルファー通りを西に向けて帰る。

今日行ったドナウ川北東のこの地区（行政区でいうとドナウシュタットというのだそうだが）、特にカグランの辺りは文教地区なのか、地図にはやたら学校のマークが目立つ。日本人学校（Verein Japanische Schule：日本人クラブ学校？）もあるよう。

2 月 14 日（金）

最終日。結局朝の通勤に地下鉄を使うことは一度もなく、今日もマリアヒルファー通りで街中まで到達。

仕事も最終日となると皆午後からソワソワし、明るいうちから（2 月なのに！）退社始める。僕の場合まだまだやることがあって、5 時過ぎまで真面目にパソコンに向かっていたが、さすがに廊下に人気が少なくなり、秘書や掃除のおばさんたちが各部屋へ入ってきて水差しやコップを片付け始める頃になって、ようやく店仕舞い。今夕はとくに何の予定もない。というか土産を探すか。

地下鉄を乗り継いで西駅へ。ホテルへ戻ろうと思ったが、西駅構内をまだ見たことがないことに気づき、上へ下へときょろきょろしながら歩く。さて、ここで西駅について少し紹介しよう。

Wikipedia の「ウィーン」の項[7]によれば、ドイツ、スイス、リンツ（ウィーンから西へ 200 km 弱）、ザルツブルク（リンツから西南西へ 100 km 強）、インスブルック（チロル地方、ザルツブルクからから西南西へ 150 km 強）方面の列車および地下鉄 U6、U3 が発着。パリーミュンヘンーウィーンーブダペストを結ぶ欧州の背骨である。上の左側の写真はザルツブルク行きで、16:40 発のこの列車はザルツブルクまで2時間30分で到着する。上右の写真はインスブルック行きだ。右の写真の列車には「DB」とあるから、ドイツ鉄道の特急だろう。

現在、オフィスやショッピングゾーンなどを増設するための大規模な増改築工事が進められており、2011 年中に完成予定。2013 年にウィーン中央駅が開業後は長距離列車、国際列車は西駅には停まらなくなるが、2011 年 12 月から Westbahn 株式会社によるフライラッシング（ドイツ）～ザルツブルク～ウィーン間の列車の始発駅となっている、とあるが、すでに情報がかなり古い。駅舎はすでに完成している。また、ここから中央駅に乗り入れるためのラインツ・トンネルの工事がウィーン市内で進められており、完成後はリンツ方面からウィーン国際空港まで直通する予定とのこと。「ラインツ・トンネルの工事」は知らない。奥只見のライントンネル [8]ならヒットするのだが。ウィーン市内のラインツとはどこかと Google map で探したら、シェーンブルン宮殿（Schloss Schönbrunn）の南西にみつけた。さすがにここまで来ると、トラムもそこから先には行かないようで、西の端という感じがする。

西駅に関してさらに Wikipedia「ウィーン西駅」[9]によると、「1858 年、モーリッツ・ローアの設計によって、ネオ・ルネサンス式の駅舎が建てられた。当時のウィーンは、まさに近代化にむけた都市改造が開始された時期で、街をとりかこむ市壁が残されていた。そのため、中心街からやや離れた所に立地している。第

---

[7] Wikipedia「ウィーン」
http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%83%B3#.E9.89.84.E9.81.93

[8] 奥只見のライントンネル
https://www.google.co.jp/search?q=%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%84%E3%83%BB%E3%83%88%E3%83%B3%E3%83%8D%E3%83%AB&tbm=isch&tbo=u&source=univ&sa=X&ei=3jNvU6_sC4aF8gWCk4LYAQ&ved=0CH0QsAQ&biw=1366&bih=643

[9] Wikipedia「ウィーン西駅」
http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%83%B3%E8%A5%BF%E9%A7%85

二次世界大戦に際して駅舎が破壊されたため、1954 年に近代的な駅舎として再建された。」とあるが、この近代的な駅舎は、週末に市内を電車に乗りまくった 2009 年にはすでに壊されていて、新しい駅ーつまり今の駅ーの建設中だった。

ウィーン市内では、中央駅（旧南駅）、フランツーヨーゼフ駅と並んで大きな駅だが、レストラン街やショッピング施設も含めた規模は水戸駅よりは小さい。もっともウィーン西駅構内の食べ物屋さんは、水戸駅みたいに朝 8 時でないと開かないとか、夜 8 時で早々に閉めたりしない。

地図を改めて見ると、西駅からは、電車は西へ向かって出発し（西へ向かう電車が出るから西駅というのか、市内の西側にあるから西駅というのか知らないが）、その線路が最終的に「しぼむ」ところは、もはやシェーンブルン宮殿に近い。駅舎から宮殿までは直線距離で 2 km 程度だ。以前（2009 年）は西駅から宮殿まで路面電車を乗り継いで行ったが、何のことはない。歩いても大したことはなさそう。西駅以外のウィーンの駅については（しつこいようだが）簡単に紹介。いずれも Wikipedia より：

- ウィーン中央駅（Hauptbahnhof）：地下鉄 Südtirolerplatz の南側に 2012 年 12 月暫定開業した。現在は、ハンガリー、スロバキア、チェコ方面など旧南駅のうち東駅の機能のみを受け継いでいる。2015 年には全面開業し、西方面を含む全ての国際列車、優等列車がこの駅に停車することになる。それまでは旧南駅の機能はマイドリンク駅が担っている。
  南駅だったのが中央駅になったので、路線や駅名称が変更（ウィーン旅行ガイド http://www.wien.info/ja）
  - ✓ 市電（路面電車）D：中央駅の東側出口まで 1 駅延長されました。終点駅名は「中央駅東（Hauptbahnhof Ost）」
  - ✓ 地下鉄 U1：「Südtiroler Platz」駅は「ウィーン中央駅（Hauptbahnhof Wien）」に改名されました。
  - ✓ シュネルバーン（郊外電車）の「Südtiroler Platz」駅は「ウィーン中央駅（Hauptbahnhof Wien）」に、また「Südbahnhof」駅は「Quartier Belvedere（クヴァルティア・ベルヴェデーレ）」駅に改名されました。
  - ✓ 市電 O 番と 18 番、市バス 13A と 69A への乗り換えはバリアフリーとなりました。
- フランツ・ヨーゼフ駅（Franz-Josefs Bahnhof）：グミュント（オーストリア、チロル地方）、クレムス（ウィーンの西北西、70 km 強）、チェスケー・ブジェヨビツェ（チェコ共和国、ウィーンから西北に 200 km 弱）方面。かつてはウィーンとプラハ（チェスケー・ブジェヨビツェの真北 140 km 強）を結ぶ特急の発着駅であったが、現在では国内向けの駅となった。駅舎は 1980 年代に建設された近代建築で外観はガラス張り。線路上を建物が覆っており、Spittelau 寄りにはウィーン経済大学およびウィーン大学の自然科学系学部が入居している。2013 年秋にウィーン経済大学、ウィーン大学数学部が移転し、ウィーン大学の他の学部も将来的には移転するので地域全体の再開発について議論されている。ウィーン市側は駅廃止（Spittelau 駅への機能集約）を求めている。
- ミッテ駅（Wien Mitte）：S バーンの主要路線および、地下鉄 U4、U3、空港特急 CAT が発着し、チェックイン設備もある。地下鉄を含めた 1 日の発着列車数が国内で最も多い駅である。ミッテは「中央」の意だが、これは駅が市内中央部に位置するためであり、ドイツ語圏でその都市の代表駅をいう「中央駅」（Hauptbahnhof）のことではない。「中央駅」は上記の旧南駅。国際列車や長距離列車も殆ど発着していない。2012 年末、ショッピングセンターやオフィス、ホテルなどを含むビルに生まれ変わった。
- プラーターシュテルン駅（Wien Praterstern）：プラターに近く、地下鉄 U1, U2, 路面電車の 5, O などが通る交通の結節点である。プラター内には 2013 年にウィーン経済大学が移転予定。
- マイドリング駅（Wien Meidling）：ウィーン中央駅が開業するまでの間、南駅の機能は主にこの駅に移されている。U6 や Wiener Lokalbahn、路面電車 62 等が通じている交通の結節点である。（空港と西駅を結ぶバスは途中この駅を経由する。）

閑話休題。

西駅内をキョロキョロしてからホテルへ戻る途中にホテルの写真を撮り（←）、ホテルの部屋に荷物を置いてまた外出。土産がゲットできるかどうかわからないが、カールスプラッツの外側にある市場ナッシュマルクト（Naschmarkt）を覗いてみることにしよう。「『ナッシュ』とは食堂楽の意味。2 本の大通り（Linke Wienzeile と Rechte Wienzeile）の間に位置するウィーン最古の食品市場で、あらゆる食材が揃うだけでなく、安くておしい軽食スタンドも多い」（旅行書）。カールスプラッツ側から近づいて行ったがいきなりお菓子を焼くいい匂い。なるほどいろんな専門店がある。雑貨屋がない。つまりどの店も超専門店だ。スパイスの専門店、ドライフルーツの専門店、チーズの専門店、ワインの専門店、オイルの専門店。もとはもちろん地元の人たち用の市場だったのだろうが、今や観光地としても紹介されているから、観光客も多い。日本人女子のグループも見かけた。ここで夕食を済まそうと思ったが、時間が遅いのか、なんだかどの店も閑散としている。金曜日の夕方なのにと思うと、なぜか警戒してしまう。

この細長い市場を西の端まで抜けると、そこはケッテンブリュッケン通り（Kettenbrückeng.）であり、地下鉄 4 号線の同名の駅がある。この駅はなんとなく古風だ（→）。ここら辺へは 2009 年に来た。Linke Wienzeile 沿いに変わった柄の外壁のビルがあり、そこの 1 階には今も日本料理屋があった。昔の手記に「正面に、1 階に「くいしんぼう」とのれん様のものを掲げた、薄いピンク色の壁に何やら花のような絵が書いてあるビルが目に入る。僕の地図によると「マヨルカハウス」というらしい。ガイドブックによればオットー・ワグナー作で、マヨルカ焼きのタイルでバラの木が描かれているらしい。」とある。

さすがに寒くなって暗くもなってホテルへ戻ることにした。カールスプラッツへ戻りここからまた歩いて帰る。途中マリアヒルファー通りでチョコレート物色する。この時期バレンタインデーが近く、ただでさえ派手なチョコレートの箱はさらに派手だ。実は今回チョコレートはヘルシンキ空港でと決めているのでここではパス。

さて西駅まで戻ってきた。どこかで夕食を。ふと、宿泊しているホテルのレビューワー欄に日本人が「ホテル前の中華料理店はとてもよかった」と書いていたのを思い出した。

CHIESE RESTAURANT ZUM WESTBAHNHOF
Felberstraβe 6, 1150 Wien

入って一人だと伝えると一番入り口に近い席に。ひとつおいて隣の席はオーストリア人らしい若いカップル。メニューは豊富だが日本の中華料理店のメニューと同じようだった。結局マーボ豆腐とチャーハンとビールと、味が予想できるものばかりを頼んでしまった。ところが、マーボ豆腐はいけなかったですね。豆腐は東アジアの共通の食材であるが食文化によって性質が異なる。日本では、おそらく豆腐そのもの味を楽しむという志向から、柔らかくて淡泊な食感をもつ独特な発展をした。一方中国では、油による調理法が多いため水分が少なく硬めの豆腐が好まれるとのこと。日本の豆腐を使ったマーボ豆腐に慣れた舌には、中国のマーボ豆腐は意外だった。焼き豆腐かと思うほど硬かった。占めて 15.20 ユーロ（2,170 円）。中国人客はいないのかと思っていたら、別室で何やらパーティーのようなも

のをしていたらしく、その戸が開くたびにワァーという話声が溢れ出てきた。
　ホテルに戻る。義母は落ち着いていると家族からメール。

2 月 15 日（土）曇り、明け方は 2℃

　帰国の途に。今朝は零時過ぎにむくむくと起き出し、ビール 1 本とスナックで空腹感を誤魔かしながら残務作業と荷物のパッキング。これで時差ボケを一気に解消か。何度部屋を見回して確認しても何か置き忘れているような気がしてしょうがない。でも何も残っていない、と思っていると飛行機に乗った頃に「あっ」と思い出すのだ。

　夜が明けて窓から外を覗くと道路がほんのり白っぽい。雪だ。今回の滞在で初めて積もった雪をみた。部屋からの眺めの写真を 2 枚。前ページは部屋から東を望んだ写真と、左は西駅を出発したトラム。

　昨日あたりから東日本は天候が再び大荒れらしく、「空の便は 9 万人に影響」「高速道路は通行止めも」「東日本記録的大雪　甲府では 114 cm」。交通網はメチャクチャだとか。何とか収まるのを祈る。出国の際の経験から、成田空港まで辿りついてもそこから動けないだろう。

【災害通報メール】（日本時間）
0352 高潮注意報（発表）＠茨城県北部、大雪警報、大雨、強風、洪水、高潮注意報（発表）＠茨城県南部
0431 強風注意報（発表）＠東京地方
0514 大雨、強風、洪水、高潮注意報（発表）＠茨城県北部、大雨警報（発表）＠茨城県南部
0630 水戸市メールマガジン　2 月 15 日午前中にかけて、低気圧の影響意により、風雨が強い状態が続きますので、…。
0737 大雨、洪水警報（発表）、大雪、風雪、着雪注意報（解除）＠茨城県北部
0925 波浪警報、風雪注意報（発表）＠風危険嶺北、波浪警報（発表）＠福井県嶺南（しかし、敦賀の同僚から、家族連れで遊びに行っている写真が続々と Facebook に送られてくるのを見ると、敦賀の波浪は街中には無関係だね。）
1415 洪水警報（発表）＠茨城県南部
2112 洪水注意報（発表）洪水警報、大雨、高潮注意報（解除）＠茨城北部南部
2234 波浪注意報（発表）、波浪警報、雷注意報（解除）＠福井県嶺北嶺南
こういう情報はスマホにメールで届く。帰国してから請求書を見て気づいたのだが、海外でも通信できて便利といい気になってメールを受信していたら、えらく高くついていた。今度からは受信拒否モードにしよう。

　7 時には朝食、その後チェックアウト。部屋のミニバー利用料金を現金で払う。初日と今日のビール 3 本（0.33 L、2.80 ユーロ＝400 円、3 本）、ミネラルウォーター（0.75 L、3.80 ユーロ＝542 円、2 本）、スナック（2.40 ユーロ＝342 円）、合計で 18.40 ユーロ（2,626 円）。

　朝食はグッドで部屋は快適だし、何もホテルライフは楽しめなかったが、ロビーは広く、解放感がある。部屋で Wi-Fi を使えないのは難で、これではビジネスマンは利用しないだろう。

　チェックアウト。日本人の若い男性がチェックアウトするのを待つ。何だか要領を得ず、ホテルの女性従業員も眉間に皺が寄りそうなのを我慢している感じ。その彼がモタモタしているせいで、西駅前から出る空港行のバスを 1 本逃す。30 分待って次のバスに。いい加減席が埋まっているところ、途中マイドリング駅に寄り満席に。

空港。欧州内行のフライトは国内線みたいなもので、昔の空港建屋を使っており、昔は両側に土産物屋が並んでいたであろう閑散とした広い廊下を行く。土産物屋が少ないだけにあれば目立つ。「マナー」（Manner）のウェーハウスを買ってみよう。ヘーゼルナッツ入りともうひとつ忘れたが別の種類の缶入りをそれぞれ１缶ずつ。10.90 ユーロ＋11.00 ユーロ、合計で 21.90 ユーロ（3,125 円）。1 缶に 10 スティック×8 パック。とても甘くて重い。これはなかなかなくならないね。

ウィーン 1155 発ヘルシンキ行き AY2766 便（Embraer ERJ-190 機）は定刻より 20 分ばかり遅れて出発。昼食はカレーだった。乗り込んだ時からそんな匂いがしていた。往路のビビンパと云い、フィンランド航空はアジア料理で奇を衒っているのか？まず前菜は Cold smoked salmon roll with wasabi mayonnaise で、メインがカレーだが、curry とは言わなくて、

Chicken kurchan, aloo palak – Indian flavours;
chicken in tomato-onion gravy and potatoes with stewed spinach

で、デザートは Godiva pralines。ちなみにフィンランド語で言えば、それぞれ、

Kylmäsavulohirulla, wasabi-majoneesia

Chicken kurchan, aloo palak – intialaisia makuja;
kanaa tomaattisipulikastikkeessa sekä perunaa ja muhennettua pinaattia

Godiva suklaakonvehdit

スウェーデン語で言えば、

Kallrökt laxrulad med wasabi majonnäs

Chicken kurchan, aloo palak – indiska smaker;
kyckling i tomat – och löksås samt potatis med spenat

Godiva chokladkonfekter

チョコレートの箱の蓋の裏に Godiva の由来が書いてあった：

When Lady Godiva, wife of Lord Leofric, protested against the taxation of his subjects a deal was struck: Lady Godiva would ride through the streets of Coventry, “clad in naught but her long tresses”, and if the population remained in shuttered buildings, their tax burden would be lifted. The following morning she made her famous ride, the citizens graciously stayed inside and Leofric kept his word and reduced the taxes. Lady Godiva won the hearts of many and her legend has continued to deepen throughout the centuries. Nowhere is her passion, purity, sensuality, style and boldness more symbolised than in a tantalising box of Godiva chocolates which in turn are sure to win the hearts of all those who taste them. （エキサイト翻訳：いつ、レディー・ゴダイヴァ、レオフリック卿の妻、彼の主題の課税に対する抗議-ed、取り引きが結ばれました。レディー・ゴダイヴァはコベントリーの通りを通って乗るでしょう、「ゼロだが彼女の長い巻き毛において着ている」、また、もし人口が閉められた建物で残れば、それらの租税負担が上げられるでしょう。翌朝、彼女は有名な旅行を作りました。市民は上品に中にいました。また、レオフリックは約束を守り、税 e.を縮小しました。レディー・ゴダイヴァは、多数の中心を勝ち取りました。また、彼女の伝説は世紀の間じゅう深くなり続けました。どこにもない、それらを味わうすべての人々の心を必ず次には勝ち取るゴディバ・チョコレートの期待をかき立てる箱の中でよりももっと記号化された彼女の情熱、清浄、官能性、スタイルおよび大胆さです。）

ヘルシンキ空港到着。ここではお目当てのチョコレートを買う。「Karl Fazer」。結構大きな板チョコですごく硬い。以前から狙っていたので数枚買い込む。ついでに「Geisha」チョコレートも。何なんでしょうかこれは。占めて 14.40 ユーロ（2,055 円）。「Karl Fazer」は家族にも好評。きっと日本でもどこかで売っているだろう。Godiva もおいしいけれど、お手軽価格で「Karl Fazer」はお薦め。Geisha はお薦めしません。

ヘルシンキ発成田行き AY073 便は、乗り継ぎ便の到着待ちのため定刻より 1 時間遅れの 1800、32 番ゲートから出発。機内ではやたら眠くて出張報告書を書けず。出張報告書なんて行く前に書いてその通り行動すればいいようなものだが、

今回もまた書けず。

2 月 16 日（日）

10 時成田着。遅れて到着したから 0915 発の高速バス・ローズライナーには乗れず。次はなんと 14 時過ぎで待ってられないと思い電車で帰ることに。スマホで時刻を調べると何度か乗り換える面倒な経路を示してくるが、まぁ、僕は電車乗りを苦にしない：

JR 総武線快速（逗子行）：成田空港－成田（一駅）

JR 成田線各停（上野駅）：成田、下総松崎、安食（あじき）、小林、木下（きおろし）、布佐（ふさ）、新木（あらき）、湖北（こほく）、東我孫子、我孫子

JR 常磐線：我孫子－赤塚

成田線というのは何だか複雑そうだと思っていたので Wikipedia を見てみたところ、つぎの 3 線に分かれているとのこと；

- 本線：千葉県佐倉市の佐倉駅－千葉県銚子市の松岸駅間
- 我孫子支線：千葉県我孫子市の我孫子駅－千葉県成田市の成田駅の間
- 空港支線：成田市内にある成田駅－成田空港駅間。一駅だけ。

今回は空港支線－我孫子支線と乗り継いだわけだ。

12 時頃に空港駅を発車。赤塚には午後 3 時前に着く予定だったところ、我孫子駅に到着した途端、「強風のため常磐線は遅れております」のアナウンス。結局 40 分ばかり遅れて赤塚駅到着。出発前みたいに 1 日遅れでなくてよかった。